



教師を目指す学生による「学生文化」「学校文化」の創造と
新たな「学生と学校のWin-Winの関係」の構築

東浦町SP通信

～東浦町では、学生ボランティアを“職員の仲間”という思いを込めて、
「SP」または「スクールパートナー」と呼んでいます。～

第4号

2021年5月18日

編集 緒方 なな
東浦町教育委員会
SPコーディネーター

北部中学校 長坂SPとの出会い

5月6日、北部中学校で活動している長坂SPに会いに行きました。大学のボランティア体験活動を北部中学校で行い、そのまま東浦町のSP活動の継続を決めてくれたそうです。北部中学校は彼女の出身校でもあり、養護教諭はなんと恩師だということ。長坂SPも養護教諭を目指して、熱心に活動に取り組んでいました。「大学の授業も忙しいです。今日も午後から大学の授業ですが、授業の合間をぬって週に一回活動させてもらっています」と話してくれました。大学2年生、きっと必修科目も多いでしょう。そんな中でも中学校に足を運んでくれています。学校ボランティアの体験には現場でしかない学びがあると感じたのでしょうか。とても大切な感覚です。その“感じる力”も教員には必要な能力だと思います。長坂SPの感じる力、研ぎ澄まされています。

彼女の恩師である養護教諭の石黒先生にもお話をうかがいました。「彼女は大丈夫です。現場に出た時に知らない事がないように、先を見据えて活動に取り組んでもらっています」開口一番の「大丈夫です」は、長坂SPの人柄はもちろん、昔からの信頼関係があつての言葉ではないかと思えます。とても素敵な関係だな、これは長坂SPも安心して活動に取り組んでいるな……と思えました。現場の先生からの温かい声掛け、そして気遣い、活動するSPさんたちにとってかけがえのない学びの土壌だと思います。安心して活動が出来る場所では、安心して学ぶことができます。長坂SPは、「これからもより質の高い学びを得られるだろうな」、そして、「現場で即戦力になれるだろうな」と感じました。

教頭先生に、「学生はどんなことに気を付けて、このSP活動に取り組んでいったらよいのでしょうか？」と尋ねてみました。すると、「現場の先生方の様子をよく見たり、話を聞いたりして、意図を汲み取って動いてもらえるとよい」と答えてくださいました。この“意図を汲み取る”こと。難しいことです。現場に行かないと分からないことです。感じられないことです。現場で、“意図を汲み取って動こう”と意識しなければ、身につかない力です。今、東浦町内で活動している全てのSPさんたちは、現場の先生・そして子どもたちの“意図を汲み取って”動いています。活動を見させていただくと、とてもよく分かります。最初は不安で、何をしたらよいのだろうかと迷いながらも、その迷いこそが学びだと気づき、積極的に活動してくれています。これからも一つ一つ、この現場感覚を研ぎ澄ましていってください。

長坂SP、明るくて笑顔がとても素敵なSPさんでした。他の学校のSPさんとのつながりも、これからの活動や将来に生かしてもらえたらと思います。今年度もよろしくお祈りします！

